



①

内館館跡付近に見られるクロップマーク

クロップマークとは、地中の遺跡がその上の土壌の性質に影響し、田畑の土の色や性質、作付された作物の生育状況などから遺跡の形状がはっきりと識別できる現象のことである。



②

内館館跡 91 トレンチ 中世の堀跡

内館館跡では、調査前に確認していたクロップマークと同位置で、中世の堀を発見しました、



①

内館館跡 92 トレンチ 中世の茶臼・古銭出土状況



②

内館館跡 90 トレンチ 平安時代の畑跡

内館館跡では、拡大する範囲の大部分で平安時代の畑跡を確認しました。
写真では、縦・横方向の細い溝跡が畑の畝（うね）の痕跡です。



①

新田遺跡 99 トレンチ③ 古代の溝跡

新田遺跡では、東北本線に沿うような、東西方向の平安時代の溝跡を発見しました。



②

新田遺跡 99 トレンチ⑥ 柱穴

平安時代よりも新しい柱穴を発見しました。